

令和元年産

大崎稲作情報 第5号

令和元年8月21日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL: 0229-91-0726 FAX: 0229-23-0910

<http://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

今回のポイント

- 収量・品質向上のため、落水時期は出穂後 30 日を目安としましょう。
- 適期刈取りと適正な乾燥調製に努めましょう。
- 収穫用機械・乾燥調製施設等の点検・整備は、早めに行いましょう。

1 気象経過と生育概況

(1) 気象経過

7月第4半旬までは、気温が低く、日照時間が短くなり、降水量は平年より少なくなりました。7月第5半旬以降は、気温がかなり高く、日照時間が長くなり、降水量は平年より少なくなりました。東北部は7月30日頃梅雨明けしたとみられます。

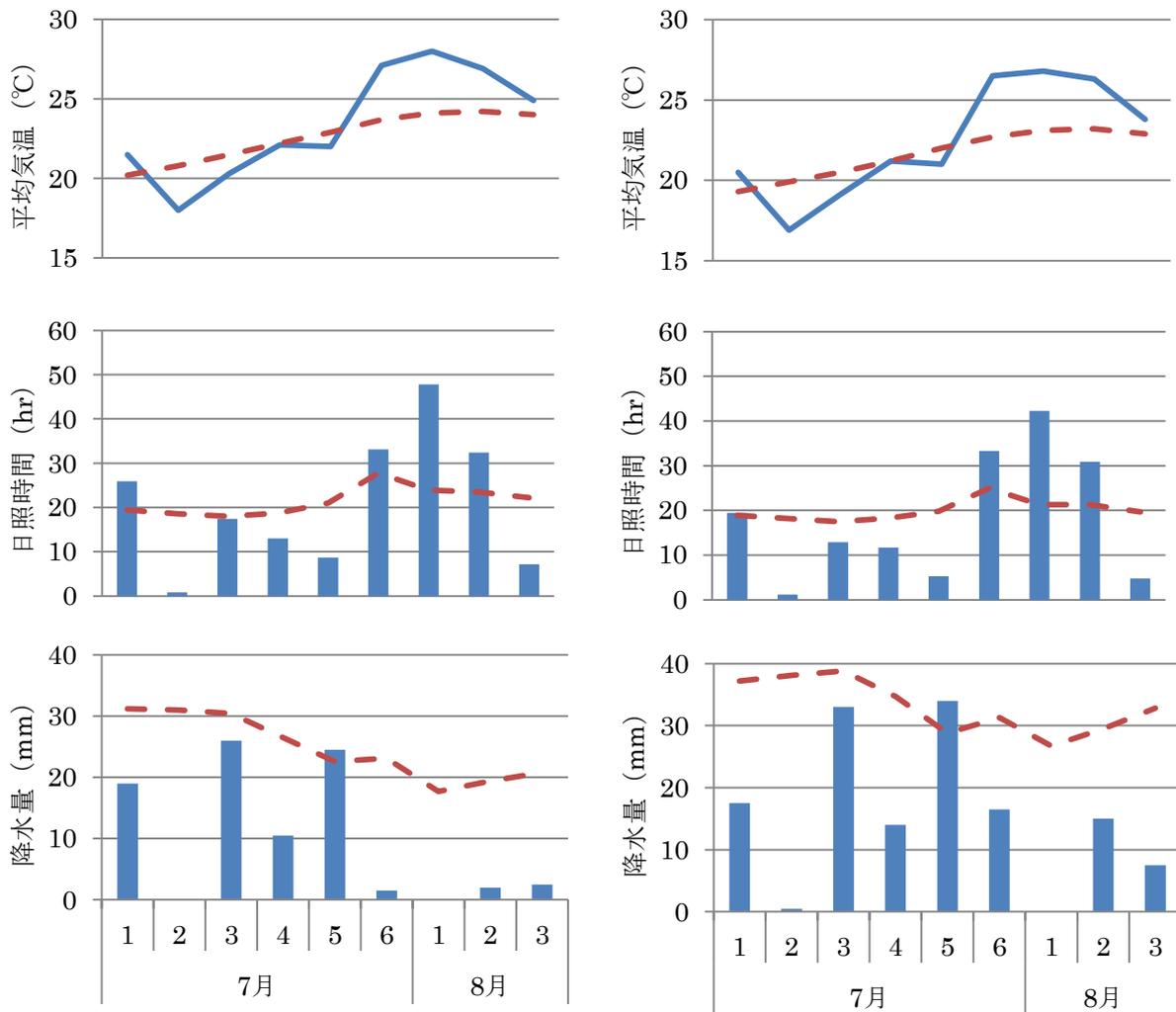


図1 気象経過 (左グラフ: 古川 右グラフ: 川渡)

(2) 出穂期

管内の出穂期は、北部平坦が7月31日、西部丘陵が8月3日、山間高冷が8月4日、管内全体は平年と同日の8月1日となりました。なお、県全体は平年に比べ1日早い8月2日となりました。

表1 管内の出穂状況

地帯区分	出穂始期	出穂期	穂揃期
北部平坦	7月30日	7月31日	8月5日
西部丘陵	7月31日	8月3日	8月8日
山間高冷	8月2日	8月4日	8月11日
管内全体 (平年差)	7月30日 (2日遅い)	8月1日 (平年と同日)	8月7日 (平年と同日)
県全体 (平年差)	7月30日 (1日早い)	8月2日 (1日早い)	8月7日 (3日早い)

※1) 出穂始期、出穂期、穂揃期は、それぞれ水稻作付見込面積の5%、50%、95%以上が出穂した日。

(3) 生育概況

生育調査ほの出穂期は、平年よりもやや遅い地点が多くなりました。
穂揃期の葉色については、平年よりも濃い傾向となりました。

表2 生育ステージ及び穂揃期葉色調査結果

地区名 (地帯区分)	品種名 (田植・播種月日)	出穂期 (月日) (平年差)	穂揃期葉色 (SPAD) (平年差)
三本木 (北部平坦)	ひとめぼれ (5月4日)	8月2日 (1日遅い)	32.6 (+1.0)
小野田 (西部丘陵)	ひとめぼれ (5月19日)	8月6日 (2日遅い)	33.9 (+4.9)
古川 (北部平坦)	ササニシキ (5月8日)	8月3日 (2日遅い)	33.6 (+0.9)
三本木 (北部平坦)	だて正夢 (5月4日)	8月2日 (—)	36.1 (—)
三本木 (北部平坦)	金のいぶき (5月10日)	8月7日 (—)	34.8 (—)
宮崎 (西部丘陵)	まなむすめ (5月12日)	8月2日 (平年と同日)	36.6 (+4.1)
鳴子 (山間高冷)	ゆきむすび (5月24日)	8月7日 (—)	37.9 (—)
真山 (北部平坦)	みやこがねもち (5月19日)	8月8日 (1日遅い)	32.2 (+0.9)
加美 (北部平坦)	直播ひとめぼれ (5月6日)	8月15日 (6日遅い)	32.2 (+0.9)

※平年比・差は、前5か年(平成26年～平成30年)の平均値との比較。

出穂期は、ほ場の全莖数40～50%出穂した日とする。

2 今後の管理

【水管理】

穂揃期以降は間断かん水として、上位葉や根の活力を維持して登熟の促進に努めましょう。登熟期の水分不足は、未熟粒の増加や千粒重の低下など、品質・収量を大きく低下させることから、落水時期は出穂後 30 日を目安としましょう。

※出穂以降、定期的にまとまった降雨があったことから、刈取作業をしやすくするため、落水時期を早めることが想定されますが、品質・収量向上に向けて、適切な水管理を行いましょ

【適期刈取】

①積算平均気温による判定

出穂期後の毎日の平均気温を積算して判定します。**中生種（ひとめぼれ、ササニシキ）は 1,000℃前後、山間地域の早生品種（やまのしずく等）は920℃前後が刈取適期の目安になります。**

また、極晩生のつや姫の刈取始期は 1,000℃、終期は 1,200℃です。早く刈り過ぎると青未熟が多くなり、刈り遅れると着色米が発生します。刈取適期幅が狭いので注意しましょう。

表-3 出穂期後の積算平均気温到達日

品種名	出穂後積算平均気温	出穂後日数
ひとめぼれ	940℃～1100℃	40日～45日
まなむすめ	960℃～1050℃	
ササニシキ	930℃～1170℃	45日～50日
みやこがねもち	950℃～1150℃	
だて正夢	1020℃～1060℃	50日前後
金のいぶき	1050℃～1150℃	50日～55日

表-4 出穂期後の積算平均気温到達日

アメダス 観測地点	目安となる 積算温度	出穂日					
		7/31	8/3	8/6	8/9	8/12	8/15
古川	940℃	9/8	9/12	9/16	9/20	9/24	9/29
	1000℃	9/11	9/15	9/19	9/24	9/28	10/2
	1100℃	9/15	9/20	9/24	9/29	10/4	10/8
川渡	940℃	9/10	9/14	9/18	9/23	9/27	10/2
	1000℃	9/13	9/17	9/22	9/27	10/1	10/6
	1100℃	9/18	9/23	9/28	10/3	10/9	10/14

※各地点の平均気温の積算値は、8月19日までは実測値、8月20日以降は平年値を使用しています。

②籾の黄化程度による判定

コンバインによる刈取始期の判断は、ほ場全体を平均して**籾の80～90%程度が成熟して黄色になり、穂軸が先端から3分の1程度黄変した時期**です。

③籾水分による判定

稔実籾の平均水分を目安に、刈り取り始めが25%、刈り取り終期が21%となります。

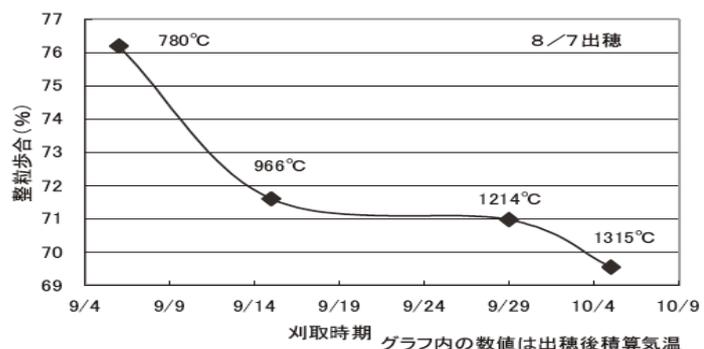


図1 刈取時期と整粒歩合の関係
(平 22 年古試「ひとめぼれ」)

【収穫・乾燥・調製】

①刈取作業

- コンバイン収穫では、籾水分が25.0%以下を目安に刈取作業を行いましょう。
- 複数の品種を刈り取る場合は、品種が替わる際に十分な清掃を行い、機械内における異品種の混入を未然に防ぐよう注意しましょう。
- ほ場内にクサネムやツククサがあると、脱穀時に種子が混入し、米選機でも容易に取り除くことが難しくなるので、収穫作業前に必ず抜き取りましょう。

②乾燥・調製

- コンバイン収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因になるので、刈り取り後、速やかに乾燥機に張り込み、送風循環しましょう。
- 倒伏した稲や未熟粒の多い稲などは高水分籾の混入が多いため、過乾燥となりやすく、胴割米の発生・砕粒の増加・光沢の低下など品質低下を招きます。高水分籾を機械乾燥する場合は、二段乾燥*を行い、水分ムラや胴割米の発生などを抑えましょう。
※籾水分が18.0%程度になったら火力乾燥を一時中断し、一定時間送風循環後、仕上げ乾燥を行うこと。
- 仕上がり玄米水分14.5%~15.0%が目標です。
- 籾摺は、肌ずれ防止のため、籾の温度を室温まで下げてから行いましょう。

◆◆◆◆◆◆◆◆農薬危害防止運動実施中（6月1日~8月31日）◆◆◆◆◆◆◆◆

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名等ラベルなどで確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って適正に使用しましょう。

※最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターホームページで確認できます。

HP<<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>>

3 今後の気象

東北地方1か月予報

(8月17日から9月16日までの天候見通し)

令和元年8月15日

仙台管区气象台 発表※一部抜粋

<特に注意を要する事項>

期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	30	60
【降水量】	東北地方	30	30	40
【日照時間】	東北太平洋側	40	30	30

<気象経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	10	20	70
2週目	東北地方	20	40	40
3～4週目	東北地方	20	30	50

<予報の対象期間>

1か月	8月17日(土)～9月16日(月)
1週目	8月17日(土)～8月23日(金)
2週目	8月24日(土)～8月30日(金)
3～4週目	8月31日(土)～9月13日(金)